

琉球大学学術リポジトリ

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2019-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 和光 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44533

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して

キャリア形成入門 担当:(非常勤講師)
株式会社沖縄ヒューマンキャピタル
代表取締役 金城 和光

1. 序論

平成 28 年度キャリア形成入門(科目)において「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞させて頂きました。関係者の皆様には心から感謝申し上げます。過去5年間、キャリア形成入門の非常勤講師を担当しました。毎年、「どのような講義内容にすれば、学生が主体的に受講するのか?」をテーマに、講義内容の研究をしてきました。平成 28 年度は、本論で記述した講義内容に改善した結果、講義後の振り返りシートでは学生の記述も多くなり、今までとは違う印象を受けていたので、このような成果につながり大変嬉しく思います。

今回の賞は、私への賞というより講義内の宿題に対して学生自身が努力した結果であり、学生一人ひとりに与えられた努力賞であると思います。

2. 本論

本論では、琉球大学の基本理念・ビジョンを踏まえ、社会人基礎力の向上を目標に講義全体の構成や講義の進め方を主体に記載したいと思います。

(1)社会人基礎力の向上(目標)

- ①「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力向上を目標にしました。
- ②社会人基礎力を向上していくためには、講義だけでは弱く自ら考え実践しないかぎり身につかないと思います。学生自ら「志・使命(Vision)」を持ち、「計画(Plan)」を作成、「実践(Do)」し、「成果(Achievement)」が出るまでやり続ける。VPDAサイクルを繰り返すことで、小さな成果が小さな自信となり、次への挑戦につながる。この成長サイクルを自ら体験し身に付けることを講義の到着目標としました。

(2)講義の全体構成(講義の進め方)

- ①講師の講義(30分) …… 国際社会及び日本・沖縄の現状を知ること。
- ②宿題のワーク(30分) …… 本から学んだこと、新聞から学んだこと、自らのビジョンを考えること。
毎回4名1チームでのディスカッション、代表が全体で発表すること。
(宿題準備有無に関係なくチーム内のディスカッションでは全員発表させる)
- ③意識向上の映像(20分) …… 学生の意識を上げる映像を見せること。
- ④振り返りシート記入(10分) …… ワークを通して、他の学生を見て自ら努力しないといけないと気付くこと。

※講義の全体イメージ(図1)参考。

3. 結論

(1)琉球大学の基本理念・ビジョンに掲げる人材育成

私は、琉球大学の「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念として、「地(知)の拠点」として、沖縄や日本、世界に貢献できる人材を育成し輩出するという、ビジョンを意識して講義を行いました。(一部抜粋)

(2)地域・国際社会への貢献(自らのビジョンを持つ)

国際社会の環境変化の激しい時代においては、過去の延長線上に未来はない。技術革新が速くグローバル競争社会においては、情報の陳腐化も激しい。学生自らビジョンを持ち常にアンテナを広げ、新しい情報を取得し、学び・実践し・成長につなげていける人材を育成することが重要かと思えます。

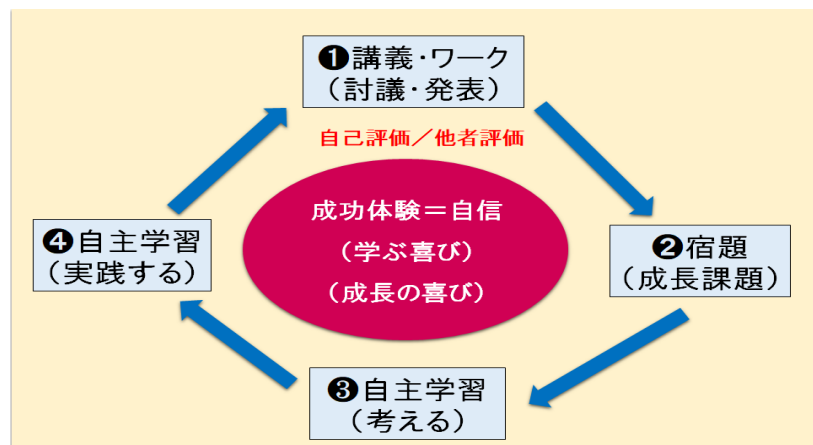
キャリア形成入門では、就職は目的ではなく手段であることを伝えると同時に、安定しているから公務員・教員になるのではなく「公務員になってどのような地域にしたいのか?」、「教員になってどのような人材を育成したいのか?」、常に目的と手段を考え行動することが大切であること教え、学生個人が「地域・国際社会への貢献」するビジョンを持つように、宿題を与えチーム内のディスカッションやチーム代表の全体発表等により、個人の意見をチームや全体で共有化し全員で学ぶという「真理の探求」を意識して実践しました。

(3)自ら学ぶ姿勢(意識)の向上

正解のない不確実な時代、キャリア教育の講師に求められることは、教科書を教えることではなく、「教えない・考えさせる教育」ではないでしょうか。今後、多様な国際社会を生きる力を身に付け、学生自身が主体的に学ぶ人材になるには、学ぶ姿勢(意識)の向上が不可欠であり、講義内ではその気付きを与える宿題を設定することが大変重要になるかと思えます。

最後に、過去5年間「キャリア形成入門」の非常勤講師を担当させていただき、私自身学生と向き合うことで大変勉強させていただきました。キャリア教育センター長及び職員の皆様にはこの場をかりて感謝申し上げます。

■ 図1 (講義の全体イメージ)



以上